

伊仙町議会だより しせん

第49号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 南奄美新生社印刷



春植え出発式の様子 (目標作付面積 320ha)

第2次伊仙町議会スタートに伴うご挨拶



上げます。

年が明けて早3ヶ月が経過いたしますが、本

町を取り巻く情勢は、昨年来から続く自然災害（台風・暖冬・大寒波等）により、基幹産業の第1次産業においては、大きく影響を及ぼしているところであり、町民の皆様におかれましても、非常に厳

町民並びに議会だよりをご覧の皆様、毎日お仕事お疲れ様でございます。

また、平素から町勢発展はもとより議員各位の議会活動に際して、多大なるご理解とご尽力を賜り、ここに厚く御礼申し

改めて町民の負託に応えていかなければならないと感じているところであります。

そうしたなかで、この度伊仙町議会は、平成26年の改選から2年が経過し、任期4年を全うするなかで、折り返しの時期となりました。

この2年間で振り返ってみますと、改選前の議会からの使命でありました、「議会改革」を念頭に、14名の議員で徹底し

て議論を尽くしてまいりました。特に、この2年間の成果として挙げさせて

頂くと、「委員会活動の活性化」であります。この委員会活動の内容については、町民の皆様におかれては、なかなか馴染みが少ないとは存じますが、端的に申しますと、本会議のみで審議を行うのではなく、14名の議員が2つの委員会（総務文教厚生常任委員会・経済建設常任委員会）に分かれて、議案並びに請願・陳情書の審査はもとより、町行政が担う行財政事務全般の調査・検証（費用対効果等）に至るまで、町民の福祉向上を最大の目標として行う活動であります。この委員会活動を重点に、2年間毎月議員各位が参集し、積年の検討事項並びに行財政改革に向けての政策提言を行って参りました。しかしながら、委員会活動を続けていくなかで、町行政の事務並びに町民の行政に対するニーズの多様化を勘案した場合、従来の委員会活動では十分町民の皆様の期待に応えるものとは言い難く、議

生活環境常任委員会

委員長	伊藤 一弘
副委員長	美島 盛秀
委員	美山 保
委員	上木 千恵造
委員	牧 徳久
委員	岡林 剛也
委員	琉 理人

永岡 良一（定数5名）

永岡 良一（定数5名）

成30年2月2日まで

員各位で協議のうえ「平成28年第2回伊仙町議会臨時会」において、先に述べました懸案事項を解決する為の方策として、新たに3委員会体制（総務文教委員会・経済建設委員会・生活環境委員会）で第2次伊仙町議会をスタートすることとなりました。新たに委員会を1つ増設することにより、各委員会での役割が一層明確になり、かつ「伊仙町議会委員会条例」の改正を踏まえて、住民生活に

直接関わる重要事項についてより深く議論を尽くし、効率的に審査及び調査を行うことが可能となりました。

つきましては、町民の皆様方へ新たな制度のもとスタートする「第2次伊仙町議会」への変わりぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月

伊仙町議会議長

琉 理 人



第2次伊仙町議会構成

議 長 琉 理 人

副議長 永岡 良一

総務文教常任委員会

委員長	福留 達也
副委員長	平 博人
委員	伊藤 一弘
委員	前 徹志
委員	上木 千恵造
委員	牧 徳久
委員	琉 理人

経済建設常任委員会

委員長	明石 秀雄
副委員長	美山 保
委員	美島 盛秀
委員	樺山 一
委員	永田 誠
委員	岡林 剛也
委員	永岡 良一

議会運営委員会	委員長 前 徹志、副委員長 上木 千恵造、樺山 一、美山 保、
徳之島地区消防組合議員	明石 秀雄、永田 誠、上木 千恵造
徳之島地区介護保険組合議員	福留 達也、岡林 剛也、平 博人
徳之島愛ランド広域連合組合議員	美島 盛秀、美山 保、牧 徳久
議会選出監査員	永田 誠
議会広報委員	委員長 牧 徳久、副委員長 岡林 剛也、福留 達也、平 博人、

議員定数:14名

現議員数:14名任期(平成26年2月3日~30年2月2日) ※委員会構成第2次 平成28年2月3日~平

平成27年 第4回伊仙町議会定例会(平成27年12月8～11日) 全議案

議 案 番 号	議 案 件 名	備 考
諮 問 第 1 号	人権擁護委員候補の推薦につき意見を求めることについて	答 申
諮 問 第 2 号	人権擁護委員候補の推薦につき意見を求めることについて	答 申
議案第61号	鹿児島県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び同組合理約の一部変更	可 決
議案第62号	事務の委託に関する天城町との協議	可 決
議案第63号	伊仙町税条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第64号	伊仙町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第65号	伊仙町介護保険条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第66号	伊仙町立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第67号	平成27年度伊仙町一般会計補正予算(第8号)	原案可決
議案第68号	平成27年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第69号	平成27年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第70号	平成27年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第71号	平成27年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第72号	平成27年度伊仙町上水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第73号	農業競争力強化基盤整備事業農地整備事業分担金負担割合	可 決

請願・陳情審査一覧

請 願 第 2 号	し尿浄化槽清掃業の新規許可を求める請願書	採 択
陳 情 第 8 号	要望書(西伊仙西集落公民館のトイレ緊急改修について)	継続審査
陳情第10号	NPO法人いせん1・1(伊仙町シルバー人材センター)の事務所移転に伴う町管理施設使用許可に関する陳情書	不 採 択
陳情第11号	要望書(町道第2西下線<徳之島3町広域ゴミ処理施設前>の道路拡幅工事の計画及び早期の着工について)	継続審査
陳情第12号	陳情書(一般廃棄物<し尿・浄化槽汚泥>の収集及び運搬業に係る奄美環境開発株式会社の許可申請等に関する陳情書)	継続審査



総務文教厚生常任委員会・ 経済建設常任委員会委員長報告（所管事務調査）

〈淡路島産たまねぎ・肉用牛関係調査〉

平成27年11月9日（月）に、総務文教厚生常任委員、経済建設常任委員、事務局を含めた16名と、町長も同行され、兵庫県淡路島（南あわじ市）に所在する「あわじ島農業協同組合」を訪問し、本町の農業生産額向上に資する新たな作物の調査を目的として、実施いたしました。

南あわじ市において生産されている農産物については、主に水稲作、そしてたまねぎをはじめとする多彩な農産物の生産。また、酪農・畜産も盛んで、肉用牛においては「淡路ビーフ」というブランドが確立されており、他にも当地から出荷された肉用牛が、「神戸ビーフ」や「松坂牛」の素牛として評価されるなど、まさに農畜産物の宝庫と言えるものでありました。

このように食に対する豊かな環境のなかで、JAあわじにおいては、様々な取り組みを行っており、なかでもたまねぎにおいては、栽培方法に関する研究や、建設的かつ実用的な事業の推進、さらに機械化だけに頼ることなく、後継者育成及び農業分野にお

る人材育成にも積極的に取り組んでいました。これらの概要を踏まえ項目別に調査結果をご報告します。

1. たまねぎの栽培状況について

たまねぎについては、水稲作後のいわゆる「裏作」として栽培しており、平成26年度においては約1,300haの植え付け面積を誇っており、同年度の主要野菜販売額においては、レタスの約50億円に次いで、約42億円の販売額となっていました。

このような多額の販売額に至った理由については、徹底した管理栽培が要因として挙げられ、特にJA側の主な取り組みとして①施肥防除基準の提示②栽培管理日誌の確認③指導・資材供給・集荷業務（ほんまもん元気野菜システムの構築）を行い、また生産者においても①農薬使用基準の遵守②栽培管理日誌の記載③出荷誓約事項の遵守の3点を徹底させることにより、安全・安心システムが確立され、多額の販売額に結びついているものだと感じました。

2. 生産者の研修・農作業受託について

年4回ほど生産技術に関する意見交換や荷造りの統一化を目的とした「生産者大会」を実施しており、生産者の意欲向上にもつながっているとのことでした。また、あわじ島農業協同組合が100%出資して株式会社アグリアイランドを設立し、農作業支援、担い手育成、耕作放棄地対策の3点を柱として取り組んでいるところでありました。

3. 販売事業・6次産業への取り組みについて

販売事業並びに6次産業への取り組みについては、主に市場出荷を中心に販売しており、平成26年度地域・市場別販売額合計として約111億円（の売り上げがあり、当地の地域経済において莫大な外貨をもたらしていました）。

4. 畜産関係について

飼養管理に関しては、県の畜産関係機関と連携して作成した「飼養管理マニュアル」に基づいて、育成初期には人

工乳を中心に与えることにより早期に第1胃を発達させ、育成中期から月齢に応じて配合飼料の量を制限し、粗飼料を十分に補給させることで肥満状態ではない健康的な子牛を作り、肥育農家の需要に合わせた飼養管理を行っていました。また、飼養管理における知識不足・飼養成績がかんばしくない生産者については、県の関係機関と連携して子牛から成牛に至るまでの巡回指導を定期的に行っており、生産者の経営に支障を来さぬよう親身になって、支援している様子でありました。

5. 営農指導体制について

現在JAあわじ管内の13支所に20名の営農指導員が在籍しており、主に営農指導員は購買の店舗に常駐し、生産者の相談等があれば、現地に赴いて指導できる体制（「スーパークラブ（原付バイク）とタブレット端末を配布」）など、営農指導にあたっての効率化を図っており、その活動状況について毎週「営農指導委員会」を開催し、営農指導員相互の情報共有と現場対応の意思統一を目指していました。

平成27年 第4回定例会

一般質問



平 博人 議員

子育て支援並びに女性の社会進出について

問 徳之島三力町は、合計特殊出生率が上位3傑を占め、名実ともに「子宝日本一の島」として、全国的に認知されております。しかし、子育ての現状を垣間見ますと、仕事と子育ての両立は、非常に厳しい状況であると感じます。特に、女性の社会進出については、国においても様々な諮問機関を通じて協議が行われており、喫緊の課題だとして捉えているところではあります。解決策が見つからず今日に至っています。そのなかで、本町にお

ける女性の社会進出並びに子育て支援に伴う意識啓発について、町内の関係機関（特に、雇用の場として役場・学校・各事業所・小売店・スーパー等）へ、子育て世代が働きやすい環境づくりをされるよう啓発されているのか問う。さらに、国においても喫緊の課題として取り上げているこの問題を、本町が官民一体となつて斬新な方策を模索し、取り組む考えはないのか問う。

フレックスタイム等の条例の策定

答 （総務課長） 本町では、平成25年3月に「伊仙町男女共同参画推進計画」を策定し、その中で、審議会あるいは町政への女性の参画というところで、各種団体等へ女性の委員を2割以上入れているという要望

等も含め、計画書はでき上がっているのですが、本町では啓発がうまくいっていないのが現状であります。しかし、町としては、今年11名の職員を採用した中で、5名の女性職員を採用しております。また現在、女性の管理職がいませんが、今後、女性の方の登用も考えていきたいと思っています。子育てに関しては、我々行政が男女に関わらず、しっかりとした捉え方をしていかなければならないと思います。育児休業、あるいは産休などこれらに関し、フレックスタイム等の条例を策定し、民間にもしっかりと広げていくようにすることが必要だと考えます。これからも広報活動、要請活動に力を入れていきたいと思っています。

保育施策について

問 へき地保育所制度が5年後には、新たな制度へと移行することに伴って、保育料の算定方法や保育環境の整備充実、さらに保育士の確保など様々な課題を解決していかなければなりません。特に、現在のへき地保育所においては、月3,500円という破格的保育料で子ども達

を預かっていますが、保育料の見直しにより金銭的負担が重くのし掛かり保育施設に預けることができない世帯（非課税世帯を除く）も出てくるものが危惧されます。このようなことも想定して、今後新制度移行までの期間、どのような保育施策を展開されるのか問う。

職員の待遇改善及び、園の環境整備を優先に

答 （総務課長） 地方創生特別委員会の皆さんと一緒に保育所の視察をした中で、保育士より要望があったように、今後職員の待遇改

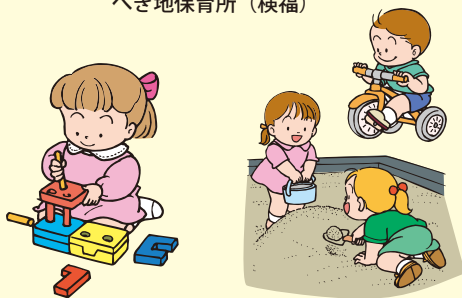
善、園の環境整備を含め、現場をしっかりと優先に考え、議論をしながら28年度の予算編成にて協議していきたいと思っています。

早急な対応が必要

（町民生活課長） それぞれ5箇所のへき地保育所は老朽化が進んでいますので、何とか早い段階での修理改善が必要だと思います。また、新制度については5箇所の園をまとめていけたらと思っています。また、予算面に関しては、財政担当と来年度に向けて協議していきたいと思っています。



へき地保育所（検福）



地域の実情に応じ独自性を出した施策を



牧 徳久 議員

問

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、平成27年度中に策定を行い、平成28年度から、向う5年間を実施期間、各自治体が地域の実情に応じ、独自性を出した施策の展開が求められている。伊仙町においても「生涯活躍のまち（日本版CRC）」を主体に置き、各分野別に総合戦略を策定中と思うが、これを12月中旬に国へ提案提出する旨で見込んでいるとの事であったが進捗状況を問う。

ピンチをチャンスに変える離島版CRC

答

（企画課長）伊仙町においては、昨年度「第5次伊仙町総合計画」を提案

し、その根幹として、今回「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を国の指針に則して実施しているところであり、9月に第1回有志者会議を開催。これを皮切りに講演会の開催

ミカンコミバエの根絶は喫緊の課題

問

果実や果菜類に甚大な被害を与える「ミカンコミバエ」の大量発生が奄美大島本島で確認され、12月13日、タンカンやマンゴー、パッションフルーツ、スモモ、グアバ、ドラゴンフルーツ、バナナなど、亜熱帯特産品の果実類の移動規制が掛かるなど、関係農家を震撼させている。また、以前に飛来した際も根絶には18年もの長い歳月

を要している事を踏まえ、特産品の需要が高まっている今日、一刻も早い根絶が望まれる。徳之島3町でも飛来が確認されているなかで、その拡大に農家は、不安を募らせているが、どのような対策を講じているのか問う。



テックス板を取り付ける様子

根絶に向け、全島民一体となった取り組みが必要

答

（経済課長）徳之島地区ミカンコミバエ等侵入警戒対策本部を設置し、門司植物防疫所名瀬支所、鹿児島県と連携をとりながら飛来害虫の侵入を防止すべく、初動防除を行っているところであり、誘引剤と殺虫剤を染み込ませた「テックス板」を町内全域に設置し、山間部や海岸線などの断崖は、ヘリコプターによる航空防除を実施し

たしました。ミカンコミバエの活動が強まる2月から3月にかけても継続して防除作業を行ってまいります。

若者の政治参加意識の高揚を

問

平成28年6月に選挙権を付与される年齢が18歳以上に引き下げられ、来年度に予定されている参議院議員選挙から、これが適用される。若者の政治離れが叫ばれるなか、向う半年間で、高校生を含む現役学生を対象に政治参加意識の高揚をどのように図っていくのか問う。

生徒会役員選挙や模擬投票

票などにより、選挙制度の仕組や意義を啓発

答

（教育長）公職選挙法の一部を改正する法律が平成27年6月19日に公布され、選挙年齢が18歳以上に引き下げられ、町選管としては、町の広報誌、リーフレットの全戸配布等で町民に周知します。平成28年7月1日現在18歳になる人数は115名であり、各学校で行われている生徒会役員選挙時に選挙制度の仕組みや意義を啓発すると共に、町選管の投票箱や投票記載台を貸し付け、選挙の勉強を実感するよう行っています。



美島 議員

問

奄美本島並びに徳之島が世界自然遺産に登録されようとしているなかで、本町の一部地区も候補地として選定されるものと町民の皆様も期待されているところであり

し尿浄化槽汚泥の収集及び、運搬業務はどうなっているのか

ます。そこで、本町の水問題並びに河川環境について、浄化槽管理（し尿処理）は最も重要な分野であるが、伊仙町

の一般廃棄物の収集及び運搬業務はどうなっているのか。また、平成26年7月から新たに新規業者が増え、2業者で委託管理を行うことについて、多くの町民は環境整備が充実されるものと喜んでいて、場所でありましたが、本年2月から新規業者が営業できなくなっているのはなぜか問う。

伊仙町の一般廃棄物処理計画がなかった

答

（環境課長）平成26年10月9日に、し尿浄化槽処理業・許可取消訴訟が起きまして、伊仙町の一般廃棄物計画がないのに許可したというところは、違法であるという判決を受け、2月18日付けで新規業者の業務を停止しました。

問

なぜ伊仙町は一般廃棄物処理計画を定めていなかったのか、その理由は。

答

（町長）平成14年度から24年度まで計画がありましたが、平成24年度に計画が終了していたことを把握していませんでした。そのために取消しになりました。

私の指導問題もあり、私の責任だと思っております。その後、本格的な計画書を作成しております。



一般廃棄物処理基本計画

新規業者の許可可はどうなるのか

問

町長は伊仙町の環境問題（し尿処理）には問題が多かったと言っています。その上で今後の伊仙町の環境問題は、世界自然遺産登録に向けて益々重要になってくると言っているが、裁判を理由に全く見通しの立たない答弁もあります。今後、町民に大きな不利益を与えることが考えられます。町長の見解はどうか問う。

答

（町長）今後、町と既存業者と新規業者とのお互いの裁判訴訟になるのは、最悪の状態ですので、混乱が起きるようなことがあってはならないことだと思っています。

保守点検実施結果の提出の有無

問

規則第11号では、「保守点検については月1回以上巡回し、し尿浄化槽の適正な維持管理に努めること」となっている。さらに「浄化槽清掃業者及び、保守点検を業とするものは、その月における保守点検実施結果を翌月の10月までに町長に報告しなければならない」と書いてありますが、既存業者の公用の報告書は提出されているのか問う。

答

（環境課長）過去に書類は出ていません。こちらのほうから強く要望致しまして、書類の提出をお願いしたところ、今年の7月に提出がありました。

問

町長部局、教育委員会部局それぞれの検査結果はどうなっているのか問う。

答

（教育委員会総務課長）今年度に関しては、浄化槽維持管理記録表が業務委託会社から出されております。

要望

公共施設には、浄化槽が設置されていますが、多くの町民が訪れる場所であり、しっかりと管理をして報告ができるように、また伝票等がありましたら資料として頂きたいと思えます。早めに新規業者に許可を出して住民サービスが十分にできますことをお願いいたします。



上木 千恵造 議員

も大幅な生産増が期待されます。今後の農業経営の安定化、生産向上を図るためには、輸送コストの軽減は大変重要な課題だと思います。面縄港を商業港として整備し、輸送コスト

面縄港の整備について

問

面縄港は昭和28年の復帰直前までは、砂糖の積み出し港として、また沖繩との交易港と大変栄えた港だと聞いています。昭和54年からは、小型漁船対策として港湾整備事業を進め、平成7年に完了し、現在は、漁港として利用されています。当町はその立地条件から、農業が主産業の町であり、特に近年はバレイショ、畜産等が飛躍的に伸びを示しており、バレイショは年間、約2万トン、肉用牛の出荷頭数においても3千頭近くに達しており今後

の軽減を図る事は伊仙町に大きな経済効果をもたらすとともに地域活性化にも大いに寄与できると思います。このような観点から面縄港の整備を町の重点施策として前向きに検討する考えはないのか。また、同港の整備についてはこれまでにも何度か要望活動を行っていると思うが、成果は得られているのか問う。

再度要望活動を行い、積極的に行政活動を進めていきたい

答

（町長・建設課長）面縄港の整備について

伊仙中部地区のかんがい排水の利用状況について

は、過去にも計画書を策定し、大島郡の町村会、徳之島3町の議員大会、大島郡の議員大会などでも提案し、要望活動を行って来たが、いずれも継続審議となってきた。平成20年には県の空港港湾課に要望書を提出し、平成26年には、当時の石破自民党幹事長が来島の折にも要望活動を行ってきました。最近になって要望活動の成果が徐々に現われており、今年の7月(9月)にかけて金子代議士、禧久県議、県の空港港湾課長等も視察に来られています。また伊仙町出身で国の港湾関係の役人の方からも「今が一番いい時期であり再度要望してみても」とのアドバイス等もありました。また、同港に通じる交通アクセスも五ラン大原線の完成で大きく変化しています。また、港湾整備を取り巻く状況も農業生産が飛躍的に伸びるなど、時代とともに大きく変わっている中、港の整備は大変重要だと考えています。奄振の今後の維持拡充のためにも港湾事業は必要不可欠な事業であり、面縄港の整備については関係機関と協力しながら積極的に行政活動を進めていきたいと思

問

伊仙中部地区の畑総事業は、事業完了後20数年が経過し、農家所得の向上にも寄与してきました。しかし現状を見ると、かんがい排水の利用状況はあまり進んでいないように思うが、町としてはどのように認識しているのか。また、かんがい排水を利用した営農計画等は策定されているのか。併せて、中部地区の受益戸数と、そのうち、水利用料金を支払っている受益者はどれくらいいるのか、また故障箇所も多くあるように見受けられるが、今後役場で調査し、補修計画を立てて修理を行う考えはないのか問う。

答

(耕地課長) 伊仙中部畑かんは、1工区から9工区まであり受益面積は約250ha、受益戸数は350戸です。その内実際に水を利用しているのは219戸で、約6割の農家が水を利用している状況です。故障箇所についても土地改良区(組織)と相談の上、対処し

ます。営農計画については経済課、または畑かん部会等とも連携を取りながらキビ、バレイショを主にスプリンクラ散水の実験等を行いながら他の園芸作物も含め順次計画を進めていきたいと考えています。



バレイショへ散水

地方創生総合戦略計画の取組みについて

問

「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、全国の自治体において平成27年度中に、地方版総合戦略を策定するよう努力義務が生じました。伊仙町においては、12月中に提出することとされておりましたが、当初の予定通りに策定し提出できるのか。そして総合戦略策定にあたっては、各種団体をはじめ、多く

答

(町長) 計画の策定にあたっては、住民や各種団体との熱心な意見交換が行われているところであります。大切なことは、現場の、そして住民の生活や、苦しい状況、そういった状況を認識し、解決していける施策をしっかりと盛り込んでいくことこそが真の意味での地方創生だと考えています。

答

(町長) 伊仙町が長寿子宝の町、出生率日本一の町ということ、ほーらい館を中心に健康で長寿を謳歌す

総合戦略を策定し、議会への報告とともにホームページへの掲載、国・県への報告を予定

の住民の意見や要望を取り入れていかなければなりません。そのような意見交換の場をきちんと設けた上で作成しているのか問う。



福留 達也 議員

に観光連盟、建設業協会、移住者公聴会、商工会等、各種協議会や団体との意見交換を実施中であり、それぞれの意見・要望を反映させた戦略を練り上げていく予定であります。このような取組を集中して行い、並行して、担当課におけるKPI(重要業績評価指標)の再確認及び校正作業を進めているところであります。今月中には総合戦略を策定し、議会への報告とともにホームページへの掲載、国・県への報告を予定しております。

問

「離島版CCRCの推進」に向けて、先般採択された約5,000万円の上乗せ交付金による事業計画・構想について問う。

お話し移住や有益な情報発信を

るために全国から移住を募つて参りました。今後5年間で250人、年間約50人の移住受入れを計画しております。

（企画課長） 移住希望者にはいろんなタイプがあるかと思われます。どうしても故郷で余生を送りたい、これまで培った技術を生かして島で仕事したい、あるいは自然の豊かな所でのんびりと暮らしたい等々様々だと思います。

我々としては今回の交付金を有効活用し、お試し移住を含め、有益な情報発信を行うことにより、希望者が移住しやすい手立てを行って参ります。同時に我々のほうからも、地域社会に溶け込み、子どもや若者など、他世代との協働や秀でた技術を持った人材、伊仙町の人材育成にも貢献できるような方々の移住に関する募集活動も積極的に行って参りたいと考えています。

へき地保育所の今後の在り方について

問

現在、町内には東部地区を中心に5ヶ所のへき地保育所がありますが、国の政策により今後5年以内に認定保育園へと移行しな

ければなりません。現状は施設の老朽化、トイレや遊具の不備、保育士の勤務形態等々、保育サービスの質の改善が急務であります。認定保育園への移行を見据えてどのように改善していくのか問う。



先月の2月27日に開催されました

答

（町長） 政府が保育所・子育て支援対策、高齢者介護保険対策ということで、4,000億円もの事業予算を打ち出しております。今回提出する地方創生総合戦略の中に、保育所の整備も組入れていきたいと思

（企画課長） ある大学の教授が、「伊仙町には、3,500円、4,000円で終日預かってもらえる、認可保育所という形態方式があるのも子宝の要因の一つだと思う。」と話されたことがあります。今後、認可保育所の長所を維持しつつ、独自性のある政策を、地方創生ビジョンに盛り込んでいければと考えています。

問

町民800名の署名を付して「し尿処理浄化槽業の新規許可を求める請願書が提出され、この先浄化槽数は増加すると予測されており1社では到底賄い切れないという懸念や、現在町内の浄化槽が適正に管理されていない状態（県下最下位）であることを踏まえてこの請願は「採択すべき」と議決され、町長も「新規許可を出したい。」と答弁した。町はこの県下最下位の管理状況について業者に指導しているの



岡林 剛也 議員

とを知らないのではないか。

答

（環境課長） 町の条例規則に従うように、文書でも口頭でも指導しているところです。毎月1回の点検については広報誌で周知を図ろうと考えています。



浄化槽の内部構造

問

天城町や徳之島町ではどうなっているのか。

答

（環境課長） 天城町は毎月1回で3万930円。徳之島町は2カ月に1回

か。また、町の条例では業者は毎月一回保守管理を義務付けられており、その上で町民は年間保守管理料（3万8,880円）を業者に支払うことになると思うが町民はこのこ

問

既存業者とのトラブル（料金や管理不良、管理不足、その他）で管理してもらえない場合はどうしたらいいのか。

答

（環境課長） 自分できてる方は、自分で清掃管理を行えばよいが、出来ない方は現在、1社しかないの

要望

現在、既存業者から新規許可を出さないよう求める旨の陳情書が出されており、もし町長が許可を出したら新規許可の取消しを求めて町を訴えると言っている。こういうことに屈して今回許可を出さなければ未来永劫、新規許可は出せないと思



萩原洋一さん（67）は、千葉県銚子生まれ、東京都品川区出身の方です。
現在は、伊仙町の歴史民俗資料館でお仕事をしています。

趣味は、釣り、ギター、ゴルフ、卓球など、とても多趣味な方です。

学生の頃に地質学を学び、その後セラミックス（窯業製品）やセンサー（検知器）などを扱う仕事を全国・世界中でされてきました。

そこで、世界中を見てきた方がなぜ徳之島に移住されたのか、そのヒントを得るべく先駆的なモデルのような萩原さんに取材をして来ました。



本人と昨年阿権に建てた自宅

声 徳之島に来られたきっかけは？

東京の渋谷にて「徳之島の写真展」が行われているところにたまたま入ると、企画課の内山さんに声をかけられたことがきっかけです。

そして徳之島に来島し、阿権で民泊をされている竹田家（幸ちゃん家）で集落の方々が歓迎してくれた事に感銘を受け、阿権に住むことを決めました。

声 伊仙町で暮らして感じたことは？

現地の方が思っている以上に自然環境が素晴らしいと思います。証明しているのは、実際アレルギーの方が少ないと思います。

また、住むうえで民家が密集するのではなく、自由スペースがあり、ほどよい距離感で民家が建ち並んでいるところが住みやすいと感じます。

声 改善した方が良いところは？

●個人・小規模で商売をされている方で、見積もりや契約関係にルーズなところがあると感じました。島では顔見知りや、信頼関係などもあり、島ならではの良いところでもあるかもしれないが、外部から企業が参入してくる中で、このままでの商習慣ではいけないのかなと思います。

●自主的に独自の活躍が必要だと思います。

現在、デジタルデバイトが進むなか、我々世代の農家においても、「パソコンは苦手だからやらない。次の世代に任せます。」という方もいると思うが、全国では、なれないパソコンを駆使し、マーケティングをしている方も大勢います。

かといって、覚えたくても教えてくれる人・会社等は少ないと思います。

そこで例えば、パソコン操作を教えてくれる会社がなければ、都会にいる息子などに、帰ってきてもらい会社を興すことで、雇用も生まれます。さらには、自分が栽培しているバレイショなど、インターネットを利用し販路開拓・販売を行えば、経済的にもよくなると思います。

この事例が正しいのかは分かりませんが、とにかく、知恵を出し新たな取り組みが必要だと思います。

※デジタルデバイトとは…コンピューターやインターネットなどの情報技術を使える人と、そうでない人に生じる格差。

最後に…萩原さんはとても奇策な方で、その人柄からか、地域の方も萩原さん宅へ遊びに来られるようであります。今回は時間の都合上約1時間のインタビューではありましたが、新たな意見を拝聴することができ、大いに勉強になりました。ぜひ次回はお酒を酌み交わしながら、お話をしたいものです。

議会の動き

平成27年第4回伊仙町議会定例会における諸般の報告（議長の動静）
動静期間：平成27年第3回定例会（閉会9月18日）以降の分

9月

- 19日 鹿浦小学校・馬根小学校運動会（各小学校）
伊仙町議会第1回地域交流会（木之香集落）
- 20日 第29回伊仙町ほーらい祭り（面縄港）
- 21日 上検福敬老会（上検福集落）
- 23日 喜念集落敬老会（喜念集落）
- 25日 芝浦工業大学の「あむとっ応援プロジェクト」中間発表会
（ゲストハウス あむとっ）
- 26日 奄美新聞社杯ゲートボール大会（町内）
- 27日 町内各小学校運動会（各小学校）
十五夜（町内集落）
- 29日 地方創生総合戦略検討特別委員会に関わる協議
（議長室）
- 30日 第64回鹿児島県畜産共進会出品牛出発式（役場前）

10月

- 1日 平成27年度奄美・やんばる広域圏交流推進協議会
（徳之島町）
- 2日 平成27年第6回全員協議会（議会委員会室）
※樟南第二高等学校の校舎改築等に関する説明
伊仙町・日本マルコ株式会社立地協定式（ほーらい館）
- 7日 徳之島三カ町議会議員連絡協議会役員会（議会委員会室）
- 9日 千葉県成田市（徳永太郎氏）との意見交換会（町長室）
- 10日 上検福営農研修センター大規模改修落成式（上検福集落）
- 11日 町民体育祭（伊仙町総合グラウンド）
- 13日 平成27年第3回伊仙町議会臨時会告示
千葉県成田市（徳永太郎氏）との地方創生くパイオマ
ス>に関する意見交換（町長室）
- 14日 議会運営委員会（議会委員会室）
- 16日 徳之島三カ町議会議員連絡協議会奉仕作業（徳之島町）
平成27年第3回伊仙町議会臨時会開会（議事堂）
地方創生総合戦略検討特別委員会開会（議事堂）
- 18日 全島一・軽量級優勝旗争奪戦闘牛大会（なくさみ館）
- 20日 平成27年度営農技術・経営研修会（ほーらい館）
- 22日 地方創生総合戦略検討特別委員会に関わる協議（議長室）
- 23日 地方創生総合戦略検討特別委員会に関わる協議（議長室）
- 26日 離島議長行政調査（長崎県対馬市）
- ～28日 //
- 31日 国民文化祭各種行事参加（ほーらい館・なくさみ館）

11月

- 2日 平成27年第4回伊仙町議会臨時会告示
議会運営委員会（議長室）・全員協議会（議会委員会室）
- 5日 平成27年第4回伊仙町議会臨時会開会（議事堂）
広報編集委員会（議会委員会室）
- 6日 ミカンコミバエに関する対策状況に関する説明（議長室）
- 7日 関西伊仙町連合会との交流会（吹田市）
- 8日 第65回関西徳州会定期総会並びに大運動会（尼崎市）
- 9日 平成27年度伊仙町議会所管事務調査（淡路島）
- 10日 第34回離島議会議長全国大会（東京都）
- 11日 第59回町村議会議長全国大会（東京都）
- 13日 大島地区自治公民館経営研究会（ほーらい館）
- 14日 明司シズエ氏の「ふり茶」町指定文化財指定に伴う訪問
（町内）
- 16日 後期高齢者医療広域連合議会議員研修会（鹿児島市）
- 18日 奄振予算中央要請活動（東京都）
- 19日 奄振予算中央要請活動・TIDAネシア交流会（東京都）
- 20日 平成27年度伊仙町戦没者合同追悼式（義名山神社）
- 21日 大学改革シンポジウム（ほーらい館）
- 22日 第39回伊仙町産業祭・食の文化祭（ほーらい館）
- 24日 後期高齢者医療広域連合議会本会議（鹿児島市）
- 27日 総務文教厚生常任委員会・地方創生総合戦略検討特別委
員会（議会委員会室）
- 29日 鹿浦小学校創立90周年記念運動会並びに式典
（鹿浦小学校）

12月

- 1日 奄美群島広域事務組合議会定例会 他（和泊町）
平成27年第4回伊仙町議会定例会告示
- 4日 議会運営委員会（議会委員会室）
- 6日 池谷幸雄氏との交流会（ほーらい館）
- 8日 平成27年第4回伊仙町議会定例会開会（議事堂）

以上

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

編集後記

町民の皆様こんにちは。農繁期でさとうきびの収穫やバレイシヨの掘り取り等で、猫の手も借りたほど、御多忙の事と拝察申し上げます。

今年は大寒波に見舞われ、奄美でも百数十年ぶりに降雪が記録されるなど雨天続きと重なり、農作物にも多大な被害を与えています。

さて、私共議会においても、先般の2月3日で4年間の任期折り返し点を迎え、議会構成も新たに「生活環境常任委員会」を加え、町民のニーズにこたえるべく努力をしているところでございます。

今後共、町財政が厳しい中、限られた予算が適正かつ、効率的に運用され、住民自治にどう貢献していくのかを峻別し、執行部とも連携しながら進めていきます。

4月からは、国が推進する「地方創生」という名のもと、様々な事業もスタートし、また「株式会社日本マルコ」も伊仙町に進出稼働される予定です。

この明るい追い風で町民全員が一致協力し、すばらしい町づくりへと導こうではありませんか。

最後に皆様方の益々のご多幸とご健勝を祈願申し上げ編集後記とさせていただきます。

（文責 牧 徳久）

議会広報編集委員会

委員長	牧 徳久
副委員長	岡林 剛也
委員	福留 達也
委員	平 博人
委員	永岡 良一